

第5分科会

地震・火山噴火による
大規模災害時の危機管理について

第5分科会
地震・火山噴火による大規模災害時の危機管理について

座長：九州地方整備局河川部
建設専門官 吉田 桂治

第5分科会
(地震・火山噴火による大規模災害時の危機管理について)
1. 目標

- ①地震災害
兵庫県南部地震、芸予地震、新潟県中越地震、福岡県西部地震
- ②火山噴火
雲仙普賢岳や有珠山、三宅島、浅間山

危機管理の実例について事例の紹介や情報交換を行い今後発生が予想されている東海地震、東南海・南海地震や火山の噴火など、地震や火山による大規模災害時における避難の方法や、地震や火山噴火時に発生する土砂災害への対応などの危機管理のあり方について、その現状と課題について議論を行う。

第5分科会
(地震・火山噴火による大規模災害時の危機管理について)
2. 討論の進め方

セッションごとに話題提供を受け、グループ討議

- 第1セッション【地震災害】
 - ・土 研「新潟県中越地震時の対応」
 - ・国総研「大規模河道閉塞対応マニュアルについて」
 - ・北 陸「中越地震発生後の危険箇所緊急点検について」
- 第2セッション【火山噴火】
 - ・S T C「近年の火山噴火と危機管理の課題」
 - ・北海道「有珠山噴火の経験をどう活かしているのか」
 - ・国総研「リアルタイム火山ハザードマップ作成システムについて」
- 全体とりまとめ
(各セッションとりまとめを踏まえて議論)

第5分科会
(地震・火山噴火による大規模災害時の危機管理について)
3. 討議結果

- 第1セッション【地震災害】 課題
 - ・1～2日ですることと 1～数ヶ月ですることが違う
 - ・調査箇所の優先順位付けが重要 → 優先的調査の絞込み
 - ・土地勘がないと、正確な情報が得られない
- ・危険箇所と施設の危険度評価は違う
- ・危険かの判断 → 個人の経験によるところが多い
- ・防災の原点 自助を促す → 住民意識を高める

第5分科会
(地震・火山噴火による大規模災害時の危機管理について)
3. 討議結果

- 第1セッション【地震災害】
調査手法
 - ・広域調査はヘリコプターを活用(ピンポイント調査には無人ヘリの活用も有効)
 - ・現地調査には、地理に詳しいヒトが必要
 - ・携帯GPSなどを有効に活用する
 - ・レーザープロファイラ活用
 - ・調査に必要な装備は通常時から準備しておく

第5分科会
(地震・火山噴火による大規模災害時の危機管理について)
3. 討議結果

- 第1セッション【地震災害】
初動のための事前準備
 - ・自分の現場の弱点(どこが危険か)を知っておく
 - ・過去にその現場に勤めた技術者やOB
 - ・情報連絡員制度、充実を図り、地元からの情報収集を
 - ・支援班で参加したヒトの教訓を活かす
 - ・専門家のデータベース等 民間も含めて
- スピードと情報の精度の見極めをつけるのが難しいが・・・

第5分科会
(地震・火山噴火による大規模災害時の危機管理について)
3. 討議結果

○第2セッション【火山噴火】 課題

発生頻度が低い、発生場所は限定できる



どんなことが起こるか 防災教育 訓練
防災力向上のための努力をどう続けていくか
行政機関も被災する
行政単位ごとに温度差
大規模避難のあり方

火山噴火の影響 広域 長期 → 噴火終焉を判断するのは難しい

第5分科会
(地震・火山噴火による大規模災害時の危機管理について)
3. 討議結果

○第2セッション【火山噴火】

火山の特性を知る(火山ごとに性格が違う)

→ 避難対策のあり方を知る

火山のホームドクター

組織間の連携 人のつながり ~ 顔の見える関係 ~

伝達手段 → 多様に

防災力向上のためには

- ・地道な活動を続けるしかない
- ・市町村の教育委員会との連携
- ・各種イベント時にアピール
- ・地元の熱心な方と顔を合わせることで、自分のモチベーションも上がる

究極は

すべての自然災害に対応できる組織に

最後は ヒト